

カーヴィングによる木彫制作と抽象彫刻の基礎考察

美術教育講座 佐々木昌夫

1. 授業の概要

本授業は、学校教育実践コース (美術教育専修) と造形芸術コースのそれぞれ3回生を主な対象とした選択科目であり、彫刻分野におけるカーヴィング技法と抽象形態についての基礎学習を実技中心に行った。本年度の登録学生は、学校教育実践コース (美術教育専修) 3回生2名、造形芸術コース3回生5名であった。

・授業目的 (両コース共通)

カーヴィング技法による抽象彫刻制作をとおして、彫刻の基本要素である素材・空間・動勢・量感について理解する。

・到達目標 (両コース共通)

- ① 抽象彫刻における素材・空間・動勢・量感について考察して、自身の彫刻観を構築する。
- ② カーヴィングの実践をとおして、基礎的な技術を習得するとともに、自身のイメージを越えた抽象形態を発見する。

・関連するディプロマ・ポリシー

[学校教育実践コース (美術教育専修)]

教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野・教科等についての専門的知識を修得している。(知識・理解)

[造形芸術コース]

地域社会の造形芸術分野に関する文化振興に貢献するため、高度な技能と豊かな表現能力を身につけている。(技能・表現)

・授業方法、形態、内容の概要 (両コース共通)

本授業で学習するカーヴィング技法では、電動チェーンソー・木工グラインダー等の電動工具やノコギリ・ノミ・大型カッター等の切削工具を使用した。それらの危険性を伴う工具の特質を考慮して、その使用方法や作業に適した服装等についての安全指導を一貫して行った。

授業の初めに、断面が15×15 (cm) の木材 (杉の角材) から、電動チェーンソーを使用して一人につき長さ40cm分を素材として切り取

らせた。その内30cm分の角材から、「ねじれる」というテーマのもとに、カーヴィングによって抽象彫刻を制作することについて説明した。今回は、初めてカーヴィングによる彫刻制作に取り組む学生がほとんどであるので、デッサンという平面から立体の彫刻を想定することが不慣れではないかと懸念された。よって、デッサンで作品プランを練るのではなく、紙粘土でマケットを制作することとした。紙粘土は簡単に形を変化させられるので、最初から立体による制作プランの試行錯誤が可能となった。次にマケットを観察して角材の6面に下描きをし、明らかに削ってもよいと判断される箇所から削らせた。以後、「マケットの観察」・「素材への下描き」・「素材を削る」という一連の作業を何度も反復することによって、抽象形態を制作させた。本授業では、頭の中のイメージの具現化ではなく、イメージを越えた作品の探究が目的であるため、ある程度制作が進展した時点で、マケットを見ることを止めるよう指示した。

第8回授業で中間合評会を実施し、お互いの作品を鑑賞させて討議を重ね、以後の制作の方向性を検討させた。最後の授業でも同様に合評会を実施し、制作の総括とともに彫刻観の整理と言語化を図った。

2. アンケート結果

最後の授業で、以下のような選択方式と自由記述方式のアンケートを実施した。本年度は、登録学生7名のうち6名から回答を得られた。(自由記述の回答は、簡略化して掲載した。)

【授業の難易度】

【簡単】0人 【やや簡単】0人 【ちょうどよい】5人
【少し難しい】1人 【難しい】0人

【授業のスピード】

【遅い】0人 【やや遅い】0人 【ちょうどよい】4人
【少し速い】1人 【速い】1人

【授業への関心】

【全く関心がない】0人 【あまり関心がない】0人
【何とも言えない】2人 【関心がある】1人

[大変関心がある]3人

【授業への満足度】

[不満]0人 [少し不満]0人 [普通]2人 [満足]4人

[大変満足]0人

【この授業で学んだと思うこと】

- ・道具の使い方。
- ・木の扱い方。(2人)
- ・ものと床との関係。
- ・グラインダーのすごさ。
- ・木目の美しさ。
- ・立体について。(2人)
- ・計画性の大切さ。
- ・形を見つけることの難しさ。
- ・効果的に見せる方法。
- ・マケットにしばられずに木材から形をつくること。

【改善してほしい点, 評価できる点】

- ・カッターを早い時点で使用したかった。
- ・各個人で制作ペースが異なるので, 授業時間内で作品を完成させることが困難であった。
- ・大型の道具等, 初めての道具を使ったこと。
- ・学校の授業ではできないような, ブロック状の木を加工できたこと。

【学習したことを, 地域文化の活性化(美術・図工の指導, 展覧会・ワークショップの実施等)につなげられるか?】

- ・木で小さな立体やマスコットをつくる。
- ・図工の授業での道具の使い方の指導。
- ・美術の題材として活かすことができる。
- ・何かしらのかたちでつなげられると思うが, 具体的にはわからない。
- ・木にかかわることに, つなげられると思う。
- ・ワークショップでやるには時間がかかり過ぎる。

【制作過程で, 自分のイメージとは異なる形や要素が現れたか?】

- ・当初は横長の作品であったが, 立てることによって縦長の作品にした。
- ・ほぼ同じ長さの二本の細長い部分の内, 一本が途中で折れてしまったので, 異なる長さにした。
- ・制作過程で作品の上下を逆にした。
- ・形はマケットと同じになったが, 削っていくうちに出てきた木目や, ワックスを塗った後の木の節が良くなった。
- ・当初は規則的に四本の柱が立っているイメージだったが, 全ての柱の形を歪ませた。

- ・最初から大まかなイメージで制作していたので, 現れなかった。

【最初のイメージと異なる作品に, どのような自己評価をしていますか?】

- ・地面(床面)との関係性ができた。
- ・今までの安定感を好む感覚とは違った面白さが出た。
- ・最初は修正しようとしたが, 途中で諦めた。結果的に作品の上の部分が見やすくなった。
- ・偶然性に気付けた。意識から離れた強さが出たと思う。

3. 地域社会を核とした教育と研究のつながり

筆者の制作(研究)のテーマは, 自己の思いどおりにはならない物質や他者の〈他者性〉といかに向き合うか, ということである。本授業の到達目標②での自身のイメージを越えた抽象形態の発見は, 筆者のこの制作テーマとつながっていると言えるだろう。アンケート結果が示すように, 受講生の制作実践は, スタート時点で抱いたイメージを木によって再現するという, 単純なものではない。6名中4名の受講生が, 制作過程で当初のプランを変更したと答えていることからもうかがえるように, おそらく木という物質の扱い難さを痛感したのではないだろうか。イメージを実現するための自己の延長としての木(素材)ではなく, 思いどおりにならない木の〈他者性〉と向き合うことによって, 自分のイメージとは異なる形や要素の発見が可能となったのである。

ところで, 本授業で扱う彫刻を含めた全ての美術作品は, 制作者個人のみから発せられる表現ではなく, 制作者を取り巻く環境が様々な面で影響していることは言うまでもない。とりわけ自身が属する地域社会は, その主体形成に大きく関わりとともに作品の重要な要素を規定している。その意味で彫刻もまた地域社会の産物であり, 本授業でのカーヴィングの素材が石ではなく木であることも, 愛媛県が有する豊かな森林資源と遠からず関係していると言えないだろうか。

アンケートで, 6名中5名の受講生が本授業での彫刻制作は, 何らかのかたちで地域文化の活性化につなげられると答えている。地域社会から規定されながら, 他方で個人の表現でもある彫刻の授業は, 受講生の今後の実践

しだいで、ベクトルを逆に向けて地域文化の活性化へと向かう可能性を備えているのである。

4. 総括

授業計画の段階では、一つの作品に長時間をかけて制作することへの不満を危惧していた。ところが、アンケート結果を見るかぎり、受講生はそのことを気にしていないようである。むしろ一つの作品にじっくり時間をかけて取り組むことに、意義を見出していたのではないかとさえ思われる。

授業目的・到達目標については、概ね達成できたと考えられる。だが、到達目標①の自身の彫刻観の構築については、本来、完成ということはあり得ないので、これからも継続的に検討して深化することが課題であろう。本授業は基礎考察という性質があることから、関連する DP は、その基礎の部分においてのみ達成することができたと考えられ、学校現場や地域社会への活用は、まだスタート地点に立ったばかりであると言えよう。

また、ほとんどの学生が授業時間外にも作品制作に取り組んでいたが、危険を伴うという彫刻制作の性質から、さらなる工具の安全指導の強化と環境整備の充実が必須である。一方、彫刻は制作実践のみではなく、その表現と創造につながるそれぞれの主体性が重要である。それが保障されるためには、受講生が能動的な好奇心を発揮することができ、その先に主体的な表現と創造の意欲が現れる契機としての、大学生活での自由時間の確保が最も基本であろう。